グループワーク議事録① 【鑑賞】グループ

➢【カード１：長期的な貸館事業】

・施設運営者の立場で考えると、安定した収益を見込むことができ、運営・収入面で良い事業だと思う。
・今までになかった取り組みであり、旭川らしい演目等であれば面白いかもしれない。
・施設運営者の立場で考えると良い事業であるように思われるが、逆に興行主の立場を想像すると、札幌と比べて、旭川の人口規模で収支が成立するような集客を可能と判断できるのか、懸念がある。
・仮に長期間の貸館をしても、１回分の集客という点で人数が薄まってしまうと思われ、収支が成立するか疑問。

➢【カード２：高水準の芸術性と設備を有する演目】

・以前はオーケストラと一緒に生音で公演を行う市民オペラ等の団体があったが、最近はそうした活動もあまり見られない。
・専用設備に関しては、整備や維持管理に要する費用が心配。現・市民文化会館において、絞り緞帳など一部の設備が、安全性の課題から費用負担・使用頻度との兼ね合いで撤去されてしまった経緯がある。
・一方で、旭川ではバレエを習っている人が多く、現施設における自主事業のバレエ公演は毎回盛況であることから、公演の分野によっては高い需要があると思う。

➢【カード３：3,000 人規模の催し】
➢【カード５：大型コンサートの開催】

・興行主の立場を想像すると、旭川では、周辺人口などの条件を踏まえて考えたとき、札幌のようにドームツアーを行うようなアーティストまで呼ぶことは難しいのではないか。
・3,000 人規模というのは、全国大会やコンベンションなど、全員が一度に同じ会場に集まるわけではない事業であれば、施設としては、なんとか対応可能なキャパシティであるように思う。一方で、市内の現状の宿泊施設等が対応できないのではないか。
・コンベンションも、旭川では概ね 2,000 人規模が現実的に限界ではないか。それ以上の規模の大会や学会も開催したこともあるにはあるが、3,000 人規模にまでなってしまうと、宿泊施設の現状の面で懸念が残ると思う。

➢【カード４：トークイベントの実施】

・文学館でもボランティアの朗読会が開催されているが、同様に仕掛けを行う人が必要。ソフト面のプロデューサーがいると良い。
・旭山動物園の園長や飼育員の方、地域の家具製作者など、地場産業の方たちが話されるというのもよいのでは。
・コンベンションの際には、市民が誰でも参加できる「公開講座」を大ホールで行う場合があり、旭山動物園の園長には何度も講演いただいている。本事業と直接関係する話ではないが、コンベンションが関係者だけのものではなく、市民や市外から来た人が自由に参加できる形態のものもあると良い。

➢【カード６：1,000 人規模の催し】

・現在の旭川市民文化会館が担う「学校の発表会や市民活動などの場」としての機能を維持することは、重要であると思う。

➢【カード７：地域イベントとの連携】

・直近の事例として、「北海道音楽大行進」が雨天で中止になり、代替コンサートを旭川市民文化会館で開催した。地域イベントとの連携、拠点としての意義は重要。

➢【カード８：親子向けの文化芸術体験】

・【カード 12：託児機能付きのコンサート実施】ともつながる、重要な事業。
・現・市民文化会館で過去に実施していたが、集客に苦戦していたように思う。
・新文化ホールで実施しようとする場合、うまく集客できるような運営上の工夫が必要になるのでは。

➢【カード９：屋外での気軽な音楽鑑賞体験】

・近年、初夏の買物公園を会場として「旭川ミュージックウィーク」が開催されているが、同様に新文化ホールの屋外でも、音楽イベントを開催できると良い。
・気軽に立ち寄れる場所であることが望ましいが、人通りの多い場所を屋外での活動場所として確保できるかどうか、課題が残る。
・大雪クリスタルホールでも屋外のイベントスペースはあるが、荒天時のことや、交通量の多い国道のことを考慮する必要があった。
・夏は椅子やステージなどを常設し、冬はイベントをしないときも良い景観になるような工夫が必要など、季節感も考える必要がある。
・常設とするか等、荒天時や冬期のことを考える必要はあるが、配置できると良い。

➢【カード 10：日常空間での音楽体験】

・美術館でロビーを使ったイベント等が開催されているが、あまりイメージが湧かない。
・駅にピアノを置いて「自由に弾いてください」といったような気軽さが必要。
・日常空間での音楽体験はあった方が良いが、実際に訪れたが人がピアノを弾くなど利用してくれるのかという懸念がある。高頻度で活用してくれる市民の方がいるのであれば良いと思う。
・駅のピアノは利用者も多いため、新文化ホールでもやってみて良いのでは。

➢【カード 11：共用部での展示活動】

・若い人たちが自分たちの活動を見せる場があると良い。
・既に同様の活動を実施しているところも見られ、新文化ホールにおいても必要な事業だと思う。
・芸術作品だけでなく、地元企業の製品を展示してもらい、子供たちに知ってもらえると地元への就職につながるのではないか。
・市民への情報発信の場であると良い。
・地元企業の製品だけでなく特産品も展示することで、コンベンションで訪れた人にも知ってもらう良い機会になる。コンベンションで全国から来た人たちは、その地域がどういう所なのか非常に好奇心を持っている。新文化ホールが開館した後、コンベンションを開催した際に歴史や産業について知れる展示があると、更に人が訪れるきっかけになる。
・現在の市役所１階のように、様々な展示が行われ、気軽に入ることができ、市民が市外から来た人に対し、旭川について説明出来るような場所が望ましい。
・現・市民文化会館において、市民の制作物の展示は展示室で行われているが、訪れる人の大部分は、元より展示が行われていることを知っており、展示の見学自体を目的とする人であると感じる。より多くの人に見てもらうためには、共用部での展示が有効なのでは。

- **【カード 8：親子向けの文化芸術体験】**
- **【カード 12：託児機能付きのコンサート実施】**

・ 子どもが小さいときは特に外出したがる。託児機能あることで、気軽に外出することができる。
・ 子どもが大きくなった時に「昔ここで面倒を見てもらったんだよ」と伝えることができれば、新文化ホールへの愛着、次世代への継承にもつながるのでは。
・ 大雪クリスタルホールでも、自主文化事業の際に託児機能（事前予約制）を提供しており、一定の需要があると思う。
・ コンベンションの観点からも、託児機能があると良い。